(第6号別紙)

令和元年度 第3回 市川市小学校、中学校及び義務教育学校通学区域審議会 会議録

1 日 時 令和2年2月4日(火) 学区審議会記録

2 会 場 市川市教育委員会 会議室

3 委員の出欠

出席者	浅野 さち	市川市議会 議員
(11名)	石原 たかゆき	市川市議会 議員
	中島 貞行	市川少年文化推進会議 副会長
	立川 和子	市川市民生児童委員協議会 副会長
	杉谷 裕通	市川市PTA連絡協議会 副会長
	田中 真理子	市川市子ども会育成会連絡協議会 副会長
	高梨 紀雄	市川市自治会連合協議会 副会長
	大塚 美江	市川市立塩焼小学校 校長
	藤井 義康	市川市立塩浜学園 校長
	藤田 泰博	道路交通部 次長
	佐原 達雄	街づくり部 都市計画課 課長

4 事務局	小倉 貴志	学校教育部 部長
	川又 和也	学校教育部 次長
	鈴木 孝弘	義務教育課 課長
	木村 栄利子	義務教育課 主幹
	椎名 美幸	義務教育課 主幹 他2名

5 教育委員会挨拶 小倉 貴志 学校教育部 部長

6 審議会長挨拶 中嶋 貞行 市川少年文化推進会議 副会長

7 審 議 会

- (1)令和2年度 新入学児童の指定学校変更等の状況について(報告)
- (2)令和2年度 新入学生徒の指定学校変更等の状況について(報告)
- (3)令和2年度 新入学児童生徒の区域外就学について(報告)
- (4)指定学校変更許可基準の見直しについて

8 そ の 他

【中島会長】

第3回 市川市小学校、中学校及び義務教育学校通学区域審議会を開催いたします。

始めに、議題1番、令和2年度新入学児童の指定校変更等の状況について、議題2番、令和2年度新入学児童生徒の指定学校変更について、議題3番、令和2年度新入学児童生徒の区域外就学について報告事項を事務局よりお願いします。

【椎名主幹】

それでは、令和2年度新入学の市川市立小・中・義務教育学校の指定学校の変更及び区域外就学の状況について、議題(1)から(3)まで、あわせてご報告いたします。

令和2年度の新入学児童生徒の「入学通知書」は、昨年の令和元年10月23日に発送し、11月2日から15日まで、土曜日の休日受け2日を含め、約2週間、指定学校変更の申請を受けました。なお、2週間の内、一番多く受けましたのが、11月9日土曜日、行徳公民館 189名の申請が提出されました。

期間内の申請は、小学校 419名 中学校 568名 合計 987名でした。

令和2年度小学校の新入学児童の指定学校変更につきまして具体的にご報告いたします。

1 ページは増減数の表となります。上段は小学校の表です。学校名を四角の枠で囲んである学校は、学級数に応じて入学者数の上限を設け、それを超えた場合には抽選をする学校で、「制限校」と呼ばせていただきます。

この制限校の内、左側の一番上の市川小学校と右側上から5番目の新浜小学校は、指定学校変更の制限を、「許可基準 10番兄弟姉妹」に限り受けをした学校でございます。市川小学校と新浜小学校は、駅前に位置し、学区内の学齢児童人口が多くなっており、空き教室がなく、学級を増やすことができない状況があり、学区外からの受入ができない現状となっております。

さて、市川小学校と新浜小学校を除く、小学校の制限校9校の指定学校変更による増減数ですが、10名以上増えた学校として、学校番号順に、富貴島小10名、鬼高小19名、大和田小16名、妙典小25名と、制限校9校の内、4校でした。

この4校を含めた、市川小学校と新浜小学校を除く、小学校制限校9校全ての学校ですが、指定学校の変更により増加した人数を、各校と調整した結果、令和2年度入学については、抽選は行わず、指定学校の変更を希望した全員の申請を承認することとなりました。一方、後程ご提案いたしますが来年度の課題も残りました。

続きまして、中学校の新入学生徒の指定学校変更につきまして、ご報告いたします。

1 ページの下表になります。小学校と同様に、制限校は、四角の枠で囲んであります8校です。その内、指定学校変更により人数が増加した学校は、学校番号順に、第二中58名、第三中47名、第四中14名、第六中23名、福栄中24名、妙典中28名の6校でした。

中学校の場合、隣接した学校から入学する人数に比べ、隣接した学校へいく人数や、私立中学校へ入学する児童もおり、入学者の人数が減少する学校が多くなっております。昨年度は、私立中学校への入学者は524名、一昨年度は、601名であり、過去5年間の私立中学校入学者人数の平均を取りますと、約560名の児童が、私立中学校への入学となっております。

今年度は、私立中学校の受験結果が出そろっている状況ではございませんでしたが、学区内にいる小

学校 6 年生の人数と推計、今までの私立中学校への入学予定者数を加味し、人数を設定いたしました。

今年度は、第二中学校と第三中学校への指定学校変更申請の希望が多く出されました。第二中学校は上限を超えなかったのですが、第三中学校は、上限を超えたため、11月22日に抽選を行いました。11月15日現在、指定学校変更により、第三中学校を希望する児童は、70名いました。その内、兄弟が在籍している児童は、12名いました。兄弟がいる場合は、抽選の対象にはなりませんので、70名から12名を引くと、抽選対象者は、58名となります。58名のうち43名が指定学校変更の承認できる人数とし、15名を不承認といたしました。

次に、2ページをご覧ください。上の表が小学校、下の表が中学校となります。

指定学校変更申請をした人数は、各表の合計に示されている通り、1月17日現在、小学校435名、中学校568名となっております。小学校の指定学校変更を希望される主な理由ですが、「許可基準 10 番 兄弟姉妹一緒の学校」が一番多く184名 約42.3%となり、市全体としては、5%となっております。これは学校行事やPTA活動などの考慮となっております。

また、2番目の理由としましては、「許可基準 9 番 希望する学校が近い」の107名となっております。このことは、市川市内には、1km未滿に複数校の小学校の設置がある場合があり、指定学校の端に居住している方は、当然隣接した学校の方が近くなります。そこで、「少しでも近い学校の方が安心・安全」と考え、変更理由の1/4を占めております。

3番目に、「許可基準 8 番 友人関係の学校のため」が95名 約21.6%となっております。これは、前回の審議会でもご意見をいただき、後程再度提案させていただきますが、小学校の変更理由の1/5強を占めております。

続いて、中学校の指定学校変更の申請状況について、同じページ下の表をご覧ください。

中学校全体では568名であり、市川市内の学齢数3,886名の約15%となります。中学校の理由としては、「8 番 小学校の友だちと一緒に学校のため」が270名（約47%・市7%）、「9 番 希望する学校が近い」が164名（約29%・市4%）、「11 番 希望校の受け入れ体制」が58名（約10%・市1%）、「10 番 兄弟姉妹一緒の学校のため」が58名（約10%・市1%）など、中学校の変更を希望した方の主な理由となっております。

中学校の指定学校変更の理由ですが、「8 番 小学校の友だちと一緒に学校のため」「9 番 希望する学校が近い」の許可基準が上位を占めております。「10 番 兄弟姉妹一緒の学校のため」につきましては、小学校と同様の理由での変更希望であると思われます。

一方、中学校の特徴として、「11 番 希望校の受け入れ体制」ですが、これは、1点目が「部活動」についてです。中学校では、部活動が学校生活の中で大きな部分を占めており、3年間打ち込む部活動が指定学校にない場合、隣接した学校、又は、隣接した学校にも希望する部活動がない場合は、2km圏内の学校に変更を希望した方です。

「受け入れ体制」の2点目として「小中一貫校」があり、これは、義務教育学校・塩浜学園への希望につきまして、1年生から9年生までと一緒に学ぶことができる「小中一貫」といった大きな特徴があるため、行徳支所管内全域から、変更を希望した方です。

最後に、令和2年度入学の 児童生徒の区域外就学につきまして、ご報告いたします。3ページの2 新入生 区域外就学許可申請の表をご覧ください。

区域外就学とは、市川市に住民登録されていない児童生徒について、何らかの事情で市川市の学校に入学を希望されるものです。

令和2年度新入学につきましては、1月17日現在、小学校、中学校いずれも新1年生で、都内や県内の隣接した区や市からの区域外就学の申請はありません。

今後、小学校・中学校ともに、指定学校変更後の転居、私立学校への入学等、入学式までに変動がございますので、最終的な人数につきましては、令和2年度第1回目の通学区域審議会にてご報告させていただきます。

なお、先程ご報告させていただきました小学校、中学校の指定学校変更の学校別の詳細につきましては、5・6ページに資料として入れさせていただきました。

以上、令和2年度の新入学児童、生徒の指定学校変更、並びに区域外就学の状況について、ご報告いたしました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

【中島会長】

はい、ありがとうございます。第1番から3番までの報告でした。何かご意見ご質問等ありましたらよろしくお願いいたします。

【杉谷委員】

新浜小はずっとまえから兄弟姉妹のみの基準で受け入れをしていると思うのですが、まだ同じ状況でしょうか。例年だんだんと兄弟が減ってきて0になってくるのかなと思いますが、気になったので伺いました。

【椎名主幹】

学区内人口が増えており、教室の方が足りない状況ですので、制限をかけさせていただいています。兄弟関係でのご申請も年間5件から6件と減っては来ていますが、まだ続いている現状です。

【石原議員】

塩浜学園ですが、塩浜学園希望が40名で他校へ41名というのは、小から中に行くときは41名が他を希望して1もしくは2名が入ってきて40名出て行ってしまうということでしょうか。心配なのは、小学校はせっかく小中一貫校なので、ちゃんと小学校の子どもたちが入るのかどうかと思ひまして。

【椎名主幹】

塩浜学園については南行徳中学区と入りこんでいるところで、南行徳3,4丁目が重なり合い、そのまま塩浜学園に残られ、行かれるかたもいらっしゃいますし、部活動の関係で、南行徳中学校へ流れる方もいらっしゃいます。

【関口副主幹】

前期課程の学区がハイタウン塩浜と塩浜学園の周りの地域のみで、中学校つまり後期課程になると、南行徳3,4丁目が塩浜学園後期課程の学区となるためそのような人数の差がでます。

【佐原委員】

小中一貫校でありながら、小学校と中学校の学区が違うということですね。

【中島会長】

義務教育学校になる前の、もともとの小学校と中学校の学区が違うということです。

【高梨委員】

6 ページの指定校変更をみていますと、下貝塚中から第三中学校へ移っている数値が毎年多いと思います。事務手続き上からも、そのあたりの住所を最初から第三中学区へ変更することはできないのでしょうか。近いという理由があるならば、学区を近い方にうつしておけばいいのかなと思います。

【椎名主幹】

学区全体の見直しをすれば、あらかじめ防げるとい事がございます。

【中島会長】

そのほか、いかがでしょうか。場合によっては2クラス分人数が違う学校がありますが、自治会との絡みがありますし、学区の変更をやたらにすることはできないことと思います。また、現在よく言われております防災の避難所がありますので、そういうことを加味しながらやっていくということがございます。ご意見がありましたらどうぞ。よろしいでしょうか。また、気が付かれましたらご意見ください。

では議題4番の指定校変更の許可基準の見直しについてお願いします。

【椎名主幹】

まず始めに7ページの松戸市の人口数の訂正です。松戸市の人口は、498,473名です。よろしく願います。

はじめに、3ページ 上段の指定学校変更許可件数の表をご覧ください。

令和2年度の現段階を含め、平成28年度からの指定学校変更許可件数となっております。毎年900件を超える申請がございます。指定学校変更許可基準に則って、申請していただき、受理、承認をいただいているのが、現状です。しかし、多くの申請があることから、学級編成の際、学級減になった学校も現実になりました。

昨年度末の第3回目に、許可基準の見直しについて、口頭で提案させていただきました。委員の皆様から、「小学校と中学校の許可基準を分けること」「友人関係の見直し」をした方がよいのではないかなどのご意見をいただきました。また、以前の審議会においても、「地域のコミュニティーや学校の安全・安心の視点も入れてもらいたい」「友人関係は他市にはないことなので、できれば大事にした方がよいのではないかな」などの意見が出されました。

今の状況のままですと、指定学校変更の希望が増え続けると、教育環境の悪化が危惧されます。これは、希望が多くなる学校のみでなく、隣接校への変更により、規模が小さくなることによる環境の変化も大きな課題と考えています。

今年度の理由でも、友人関係を理由にした希望が多い状況です。その中では、小学校であれば、幼稚園・友人関係をそのまま維持したいという理由です。中学校でも同じ小学校との友人関係を維持したい、部活動に入りたい等の理由が多い状況です。

7 ページに、許可申請の項目について、他市の状況と照らし合わせました。各市のホームページに掲載されている標記ではなく、市川市の許可基準を基にしたものです。船橋市は、指定校変更制度(新入学・在学年)がありますが、申請理由としては、①事前転入 ②留守世帯 ③身体的な理由 ④兄・姉が在籍 ⑤通学距離 ⑥部活動がないとき ⑦余裕学校への希望の場合 ⑧市教育委員会が認める相当な理由等があります。友人関係等での理由では受けていないとのことでした。

浦安市は、学校選択制度、在学年指定校変更、新入学小規模校学校選択制度、小規模校への変更希望を受けているそうです。一覧には友人関係に○が付いていますが、保護者と面談をしてからの、申請となるそうです。

松戸市は、新入学学校選択制、学区外申立制度(新入学・在学年)、新入学学校選択制度、公開抽選を行い、学区外申立制度・兄・姉と一緒に・事前転入・就労関係・身体的な理由・特別支援・DV等の理由で受けているようです。友人関係のみの理由では受けていないとのことでした。

市川市は、平成9年から指定校変更許可基準を運用しております。社会情勢も大きく変化している状況も踏まえ、これから許可基準を見直していく中、3番目の項目「両親の就労等により、児童の監護、養育に欠けるため」とし、祖父母宅などの預け先がある場合に限ることが考えられます。そして、5番目の項目「転居に伴い、従前の通学校を希望するため」、10番目「兄、姉が在学している学校を希望するとき」以上の3項目は、必ず含めることとしていきたいと考えています。

その他、いくつか項目はございますが、今回ご審議いただきたいのは8番目の「友人関係等の理由によるため」の是非についてです。

近隣他市には、この「友人関係」という表現がない市もあります。最近の申請状況では、「仲のよい友達と一緒にがよい」「小学校で一緒だった友達が行くから」という理由が多いです。「いじめ」や「人間関係のトラブルが生じたとき」といった表現にすると、個々の課題など序列化ができないこともあり、判断が難しい課題となります。

また、小学校と中学校の許可申請基準を変えることも含め、今まで、市川市として認めてきた、「友人関係」につきまして、忌憚のないご意見をいただき、今回、ご審議していただいたことを基にし、新たな変更許可基準を作成し、次回ご提示させていただきと思います。

何卒よろしく願いいたします。

【中島会長】

はい、ありがとうございました。指定校変更の許可基準の見なおしについて、8番の友人関係の理由によるための部分が聞きたいとのことですが、いかがでしょうか。現場の方で大塚校長先生どうでしょうか。

【大塚校長】

友人関係の理由については、小、中と分けていただきたいと思います。小学校入学ではこの基準は必要ないと思います。中学校入学は人間関係、不登校、また特別支援にからむことも多く、学区以外の隣接の学校を選ぶこともあります。6年間の成長過程の中で、いろいろな人間関係がありますので、中学校入学ではこの基準はあった方がいいと思います。浦安の場合では、保護者と面談をしてということがありますので、納得した理由でしたらこの基準で指定校変更したらよいのかと思います。

【中島会長】

現場の方からということで、大塚校長先生からお話を伺いました。他にありましたらご意見等おねがいします。

【石原議員】

大塚校長先生とほぼ同じなのですが、小学校1年生が入学してみると、友人関係をそこまで心配することはなかったというご意見が多いです。学校としても幼稚園の子どもたちが気安く来られるような手だてをとっていますが、やはり流されるのが強いところですので、小学校に上がるときは友人関係の理由はなくてよい状況があると思います。

指定校変更の発端を考えると、学区の弾力化を品川区が取り入れた時期があり、全学区を自由化し、学校に競争原理を少し取り入れた時期がありました。学校ごとに魅力を出すや評判のよい悪いがでてきて、学校を選ぶ理由がどこでもよいということになります。プラスマイナスが出てくると、学校を活性化、淘汰し、皆が行きたがるような学校にしていこうという考え方でした。その時期に合わせて市川市も弾力化を進めた経緯があると私は思っています。そこを一步とどまり、大きな目的は淘汰するのではなく、すべての学校を同じようによい学校にしていくことが基本であり、ある程度は制限をかけて大きな数の移動がないようにしていくことを考えていこうという機会だと思うのです。最終的に大きな目標は、義務教育学校、小、中の学区を同じようにしていき、学区をきっちり決めて、そこで運営していく方向ですから、過去のことから考えると、まずは、小学校の段階ではきっちりと学区へ入ってもらうことが必要だと思います。

中学校のところは難しいところで、軽い気持ちで自由にとというのはどこかで厳しくし、面談をして、本当に必要なのか等の判断基準は難しくなってきます。浦安は140人なので、人数的に可能なのかと思うのですが、市川は270人ですので、これを全部面談というのは物理的に難しいところです。二つにまたがるところは、暫定的に面談をすることをしばらく行い、うまくやりながら大きな目標に向かいみなさんと同じ方向を向き、具体的なところは検討していくということなのかと思います。

【中島会長】

ありがとうございます。石原議員も現場にいらしたのでいろんな意見を伺いました。他にも、いかがでしょうか。

【浅野議員】

友人関係なのでいろいろあると思いますが、書き方についてですが、理由によっては段階がみえるのかと思うのですが。

【椎名主幹】

申請者から申請をうける時に段階的ではなく、また深くは聞き取りをしておりません。仲のよい子と同じ学校といったことで聞き取りをしています。保護者の中には嫌なことがあったからといったことについては友人関係でとっています。

【浅野議員】

保護者が申請するといったことについては、みえるようにした方が、わかると思います。270名の中

でも、最終的に面談になるのかを含め、他市も友人関係という項目がない中、すべてカットするというのもどうなのでしょう、意見です。もう一点、松戸市と市川市人口数変わらずのところで、松戸市の1,091名とはどんな感じなのでしょう。

【椎名主幹】

松戸市は隣接している学区の中で学校を自由に選べるということで、この数になっています。その中で抽選校も3校あったということでした。市川のような全体的なやり方ではないので、市川市とは制度が違うということです。

【浅野議員】

近隣であれば自由に選べるのですね。例えば信篤小から鬼高小、幸小から塩焼小、塩焼小から妙典小という同じようなずれ方をしていますよね。松戸市と同じような部分での理由もあるのかなと、根本的に考えなければならないのか、会長さんがおっしゃるように自治会のからみがあるのか 信篤小と稲荷木小学校ですが渡ればすぐ田尻なので鬼高小ですが、外観道路のことなど環境が変わってきているので考えなければならないのかなと思います。松戸市のことはよくわかりました。

【中島会長】

やはり友人関係の理由によるということで、どういう理由かを大事にし、中身をきちんとした方がよいのではないかと思います。

【佐原委員】

友人関係の中でも、もしいじめの場合でしたら、部分は一番消してはいけない項目なのかなと思います。くくり方がよくないと思います。

【中島会長】

そういうことだと思います。

【石原議員】

浦安市に3年教頭でいましたが、いじめや人間関係のうまくいかない部分を事前に学校と相談して、システムというより、子ども達の次のステップを考えて親御さんの意向に沿いながら丁寧にやっていました。少ないからできるというところだと思います。簡単に友人関係ではなく、相談できるような形、基準というよりも、そういう時にはこういう風にしていこうというシステムというか、マニュアルというか、ケアしていくのも一つの手かなと思います。

【杉谷委員】

あくまでも入学時の話ですよ。学期の途中で友人関係が壊れるケースではないですよ。

【椎名主幹】

いじめや不登校、友人関係の悩みに関しては面談をして、学区じゃなければならないという事ではなく受け、遠いと通いづらいため小学校は1キロ圏内、中学校は2キロ圏内というところで対応してお

ります。入学時と在学年ときちっと分けた方がいいというご意見もあったので、忌憚のないご意見いただけたらと思いますのでよろしくをお願いします。

【中島会長】

ありがとうございます。

【藤田委員】

友人関係は幅が広すぎるので、外していくのがよいと思います。質問ですが、12番の項目のその他の中にいじめ問題を扱う項目として対応するという方法もあるのかなと思います。友人関係は項目としては、今後なくしていく方向でよいのかと思っています。

【立川委員】

同じような意見ですが、友人関係は仲のよい友達ということで軽い気持ちで相談できるのかと思います。小学校からいじめに合ったお子さんというのは、やはり同じ学校に行くのは大変なので、入学前に相談できる場所があればいいのかなと思いました。ですから、友人関係という表現がよいのか悪いのかと感じます。

【田中委員】

具体的な話になるので、やはりなくてもよいのかと思いました。それと、900件あるということで大変だと思いますが、新入学の指定校変更の対応は何人で行っていますか。

【椎名主幹】

6人で行っております。会議室には多くても3人が詰めて受け付けを行い、残りの3人で電話対応等を行います。また、大和田小の新入学生の方については距離を測る対応もしております。

【田中委員】

この数を6人でこの数は大変ですね。

【中島会長】

よろしいでしょうか。ちなみに、30年前にもこの仕事をしていましたが、問題点があると、審議会の中で、いくつか、この人は受けてもいいでしょうかという部分もやっていました。その辺など、事務局でひっかかる部分については、問題がある点を知ってもらった方がいいのではないのかなと思い、付け加えさせていただきます。それでは、皆さん、その他に何かございますか。

【藤井校長】

中学校の方ですけれども、生徒のマイナスプラスの増減は大きい。地域の学校でやることとなると、やはり増減の範囲で1学級の違いとなると全然違ってきます。学区の見直しと、指定校変更の理由と両輪でやらなければならない所があると思うので、その辺りのうまくバランスが取ればよいと思います。また、指定校の変更の理由として、家が近い友人関係という2本立てで挙げられている。ということは、仲のよい友達が、家から近い学校に指定校の変更をすれば、その友達も指定校の変更をするこ

ととなる、という理由も付随しているかとも思う。だから、友人関係だけという理由も細分化しなければいけないと思う。また、それに付随しているものが必ず理由としてあると思うので、それらの関連を踏まえながら、指定学校変更の許可基準としての友人関係は、特別な事情を持ったケースと年度途中と年度初めとし、単に仲良しだからという理由とうまく均等に制限を変えていくと人数的にも減ってくると大体均等になってくると思います。

【中島会長】

その他にありますか。

【佐原委員】

質問ですが、抽選制度の場合、許可する基準について重い基準と軽い基準があり、疾病などある場合と友達が行くからという場合があると思いますが、全て同じくくりで抽選になってしまうのでしょうか。

【椎名主幹】

心身の障がいや疾病に関しましては、そのお子さんがその学校に通って教育を受ける権利がありますので、その権利については、優先的に対応させていただいています。友人関係や距離が近いといった場合につきましては、同じくくりとして抽選の対象とさせていただいています。

【中島会長】

よろしいでしょうか。

市境の場合の部分ですけれども、何人かが他市から市川市に来ているケースもあれば、住んでいる時から他市へ行っている子もいると聞きますが、現状はどのようになっているのでしょうか。

【椎名主幹】

区域外申請で市川市に住民票があり、船橋の学校に通っているというケースはないです。新築の関係や市川市の学校にこれから転入するという事で事前転入という相談を受けています。

市川市に住民票を置きながら、他市の学校に通学したい場合は、他市の教育委員会と協議をしなければならないということがあり、認めてはおりません。

【中島会長】

祖父母がいる場合は、そちらへ行っている場合は、第六中ができる前は、昔は葛飾中にいっていた。30年から40年前は自由に行ったり来たりしていた。船橋の方から行わないようにとやってきたからなくなったということもあった。また、松戸学区だけでも家の前に学校を作っているのに、入れないで大町小へ行くというパターンもあります。

その他ありましたら、意見を言ってください、どうぞ。

【立川委員】

地元の二俣小学校が義務教育学校になるという話が出ているようですが、原木4丁目あたりから信篤小へ行くのは問題ないのですが、二俣1丁目、2丁目の1年生の子が京葉道を超えて信篤小まで通うというのは難しいという話が出ています。スクールバスを出す、二俣小を残して分校にする等検討してほ

しい話がちらちらと入ってきます。1年生が遠くまで通うというのは、なかなか難しいのかと思いますし、距離もどのぐらいあるのかなと思います。

【鈴木課長】

そのあたりはこれから検討委員会で検討していきます。スクールバスというのも一つの方法として考えていきたいと思っています。

【中島会長】

最悪の場合、場所を変えるということや、中学を動かすという話にもなってくるでしょう。北の東国分中ブロックというはどのようになっていますか。

【鈴木課長】

どこにという配置の話は、これからです。

【立川委員】

校庭などは、皆が使いたいという要望があります。狭いところで練習しているので、できれば使わせてほしいです。

【鈴木課長】

これありきではないので、検討委員会で皆さんにご意見を伺って合意をはかって進めていくことになります。

【中島会長】

難しいことですね。防災水害のことや用地のことも考えてどういうふうに進めていくか 昔出た部分だけではなく、次のステップにむけてどういう風に考えていくかですね。それこそ直さなければいけない部分はいいか悪いか、少年野球ブロックの中身を変えることになった例ですが、自治会 14 ブロック、少年野球は市内 6 ブロックを 3 つに分けることになった。そういうこともやっている。市川でも市内 3 つ、4 つにわけて 1 つ選ぶというような時代も来るのかなと、また交通の問題や通学路の問題を含め、どこかで学区の再編を進め考えていかなければと思います。

【藤田委員】

質問ですが、学区の見直しに簡単に手をつけられないような難しい理由があるのでしょうか。

【椎名主幹】

ひとつの例としましては、市川 1 丁目の何番地によって分かれている、または、いりくんでいる所があり、それが 2・3 校かにまたがっていたりすると難しい所があると思います。学区内人口で町別ごとのマンションにたくさんいる、全体的に町に何人住んでいるのか人数をきちんと割り出していかなければならないです。

【鈴木課長】

また、祖父母、父母が普通っていた学校に行かせられないかといった要望も結構あります。

【中島会長】

終わってからでもよいので気が付いたことを事務局に伝えていただければと思います。ないようでしたら、本日の審議はこれで終了させていただきます。事務局にお戻しします。

【事務局】

次回は、令和2年7月頃を予定しています。来年度になりましたら、皆様のご予定を後日お伺いします。

本日はありがとうございました。

令和2年2月4日

市川市小学校、中学校及び義務教育学校通学区域審議会

会 長 中 嶋 貞 行